



[全地域]

実施者

＜実施者＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター 青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師，合同会社いいもんだ）

a. 合宿ボランティア 千葉工業大学 工学部 機械工学科（3年 谷田），機械電子創成工学科（3年 影山），先端材料工学科（1年 石井，吉田，渡辺，2年 佐藤，4年 蒲池），電気電子工学科（3年 隅田），情報通信システム工学科（2年 田原，相馬），応用化学科（1年 大嶋）

千葉工業大学 創造工学部 建築学科（1年 遠藤，丸山，村瀬），都市環境工学科（4年 池田）

千葉工業大学 先進工学部 生命科学科（1年 青山，飯田），知能メディア工学科（2年 田窪，成島，堀越）

b. プロボノ 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室（4年 荒川，池田，若本，橋本，松井，渡邊）

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民生活部 市民課（市民協働G，富山・丸山・三芳・和田地域センター），観光プロモーション課，商工課，教育委員会，千倉中学校，企画財政課

【企業等】みねおかいきいき館 *実施サポート 千葉工業大学新習志野学生担当

【市民団体等】地域づくり協議会（ふらっと（富山），さざなみ（富浦），みよし（三芳），郷づくりまるやま（丸山），きりり（白浜），きずな（千倉）），チーム花鯨，花嫁街道保存会，丸山農業まつり実行委員会，フラワーマーチ実行委員会，高家神社，大井自主防災組織かわせみ，各行政区ほか

1. 背景・目的

南房総市では、3年にも及ぶコロナ感染症拡大の影響で地域の産業活動や地域活動（お祭りや子ども会，その他行政区関連行事），市民活動等が停滞するなど地域全体の活力低下が心配されている。その要因として考えられるが「団体内や団体外とのヒトのつながりの断絶」。今後，南房総市が活力を取り戻し次なる災禍にも対応しうる強い地域を目指すには，地域の担い手が元気を取り戻し，市民協働（つながり）をアップデートすることが重要である。

そこで本PJでは，これら地域の課題を改善するべく，以下3つを主な目的とした。

- ①南房総市で特に担い手の応援が必要と考えられた「市民活動」「地域産業」「防災教育」の担い手の活動の継続や再始動を，工科系の大学生や教職員等の大学関係人口がボランティア・プロボノ（専門性を持ったボランティアのこと）を通じて応援すること，
- ②現地での実践活動を通じて，実社会の求める人間力が生まれ学習の動機づけにつながるとともに，地域の担い手の役割や機能の一部を補えるような大学関係人口を育てること，
- ③学内のボランティア科目を絡めた南房総市でのボランティア実践を，一人でも多くの学生に志向してもらえような，地域側からの効果的な制度の運用についての課題を明らかにすること，そしてこれらの取組みを進めることによって，大学関係人口の“新しい人の流れ”を南房総市に定着し，地域の活力再生にむけたピンとコロナの新たな市民協働推進の一助となることを期待する。

2. 活動内容

（1）市民活動再始動応援のニーズ把握と実施の枠組み

①市民活動再始動実態についての調査と明らかになった課題

まず本PJでは、「地域の活力」を市民活動を通じた人と人とのつながりの視点でとらえ，コロナ禍明けの市民活動において何に終止符がうたれ，何が停滞をし再始動しようとしているのか，その実態を調査し課題を整理した。調査対象は，合併前の各旧町村の地区ごとに設置され，市が既存の行政区や市民活動やその担い手を補完しつつ，自主的な地域課題解決にも取り組む役割を期待している地域づくり協議会（2009年設置。主な構成員は行政区の関係者やNPO，事業者，個人等の多様な主体からなる協働組織。現6団体，今後設立が期待される1地区。）の活動や関連する地域活動や人とのつながり，協働実態とした。調査は6月に実施。場所は市主導の定例の地域づくり支援員（地域づくり協議会の事務局も担当）会議にて，ヒヤリング調査形式で行った。

結果市民活動再始動にあたっては，

- 「活動メンバー間のコミュニケーションの場づくりの必要性」
- 「メンバーの高齢化や活動離脱による活動再始動にあたってのマンパワー不足」などの課題が明らかになった。

②学生ボランティアによる市民活動等の再始動応援の枠組み

本PJでは，前述の2つの課題のうち主に後者の課題に対して貢献するべく地域側からのニーズに基づき，「合宿ボランティア活動」と「プロボノ（専門性を活かしたボランティア）」を行った（表1）。

表1 学生ボランティアによる市民活動等の再始動応援（2023年度）

分類	実施期間	活動内容	実施地域	学生ボランティア
夏ボラ	8/25～8/27 (3日間)	SDG's チャレンジ夏ボラ！海・山・川・林大作戦 in南房総市（ちくらアートな海の散歩道の草刈り/花嫁街道 遊歩道整備/和田浦 海岸ビーチクリーン、花の広場公園花夢花夢の花壇整備ほか）	千倉/和田	5名
秋ボラ	10/27～28 (2日間) 11/4～5 (2日間)	SDG's チャレンジ秋ボラ！秋祭り再始動応援 in南房総市（まほろば夢まつり※ 設営撤収・運営補助ほか）※5年ぶりの開催 SDG's チャレンジ秋ボラ！秋祭り再始動応援 in南房総市（ふらっとフェスタ設営撤収・運営補助、里山整備ほか）	三芳/富山/丸山	4名
冬ボラ	1/19～21 (3日間)	SDG's チャレンジ冬ボラ！食と農にまつわるイベントサポート in南房総市（丸山農業まつり※設営撤収・運営補助/白浜里見古道の遊歩道整備ほか）※昨年3年ぶりの開催	千倉/和田	5名
春ボラ	2/16～18 (3日間)	SDG's チャレンジ春ボラ！ウォーキングイベントサポート in南房総市（南房総フラワーマーチ※ 会場設営撤収、運営補助ほか）※昨年3年ぶりの開催、4年ぶりの長距離コースの設定	白浜/千倉/和田/丸山	5名
春ボラ	2/24～8/26 (3日間)	SDG's チャレンジ春ボラ！市民活動サポート in南房総市（関東小学生剣道大会※ 設営撤収・運営補助/里山整備・防災学習/高家神社竹あり撤収ほか）※昨年4年ぶりの開催	富浦/丸山/千倉	2名
計16日間		現地活動30h/人×21名 = total 630h、9団体の応援活動	全7地域	21名

分類	実施期間	活動内容	実施地域	学生ボランティア
プロボノ	12/8 (1日間)	●千倉中学校の南房総学「竹あり大作戦」の運営支援 10:30～12:10、千倉中学校技術室、中学2年生参加67名、実施内容（竹ありづくりの体験促進/電動ドリルの使い方指導と安全管/会場準備と撤収） *共催 千倉中学校・高家学ぼう会、技術支援 千葉工大 ◎高家神社の参道へ中学生が制作した「ミニ竹あり」の設置 13:30～16:30、高家神社、実施内容（LED用の穴あけ加工、参道への設置作業）	千倉	5名



1,3,4 夏ボラの様子（花嫁街道整備、花の広場公園花夢花夢の花壇整備）
5,6 秋ボラの様子（フラットフェスタ、まほろば夢まつり）
2 プロボノでの千倉中南房総学支援

域学協働の工夫！

- ★地域の「産業（主に1次）」「防災」「市民活動」の担い手を支え，機能を補完するような南房総市の関係人口を育てるといった地域側の関係主体と大学との目的・目標の共有
- ★大学関係人口と地域ニーズや地域の活動団体へ導くようなコーディネーション機能が期待される地域づくり協議会と大学との新たな連携・協働の可能性探求
- ★学生にはボランティア以降地域への「関わりしろ」を見つけてくうえでのヒントを地域側より提供してもらい，地域や団体・人との関係性の階段を上っていくうえでの具体的な方法（貢献形態、学内カリキュラム）も紹介

a. 合宿ボランティア 【全学部共通/選択必須教養科目対応】

まずボランティア活動は，学内の選択必須科目と連携した取り組みで，30h/人現地活動を，学生の長期休暇（夏期・春季）や週末休暇を利用して，市内に滞在しながら毎回2～4学科所属のメンバーから編成される5人程度のチームで行った。その結果，各活動の場が学内でも希少な学科横断的な実習・交流機会の場となった。また本プログラムでは，科学者やエンジニアの卵である理系学生に対して，持続可能な開発目標（SDGs）への意識を，身近な農山漁村における実践活動を通じて高めてもらう場づくりを企図した。

b. プロボノ・スチューデント 【サークル等学外地域貢献活動（単位認定なし）】

もう1つの取り組みとしては，専門的な知識や経験を活かしてボランティアで地域貢献をするプロボノを実施した。この取り組みについては，基本単位取得等に関係なく，地域ニーズに対応できる有志メンバーで取り組まれた。期間も定めず，あくまでもニーズに答える成果を達成することがミッションとなる。

（2）大学関係人口の育成の工夫

～地域と学生，学生と学生との関係性のデザイン～

a. 学生個人が地域とが直接つながる新しい人の流れをつくる

今後，災害等の復旧・復興などの非常時における対応が地域側，大学側に求められた際には，その体制として地域と学生等の大学関係人口との関係性が多様であることが何よりのリスクマネジメントとなる。本PJでは従来のサークル合宿や実習・調査研究で地域を

訪れことはまた別の形でのボランティア活動（学内科目連携）等によって，工科系の大学生等の「大学関係人口」の“新しい人の流れ”を定着させること，学生個人と地域との新たな関係づくりを進めることを試みた。

b. 大学と「地域づくり協議会（全地区）」との連携・協働を強化

平時も非常時も，大学関係人口が地域に入り込み効果的な連携・協働体制のもと市民活動に取り組むためには，地域のニーズを広く把握し，関係人口を地元の活動団体へ導くような関係人口案内所（あるいはそのような機能，窓口）が地域側に備わっていることが望ましい。そこで本PJは，本年度から旧町村地区別の市民活動の結節点となる地域づくり協議会を，その案内やコーディネーション機能を有する団体の1つとして考え，再始動応援をする傍らその可能性をさぐり，団体の現状を考慮しながら大学と協議会との新たな関係づくりを試みた。

c. 学生むけ防災教育とチームで働く力の養成

令和元年房総半島台風の時の千葉工大による支援活動のように，今後南房総市と大学関係人口との関係性が発揮される場面の1つには，自然災害時の復旧・復興が想定される。そのことから本ボランティア企画において，可能な会議り「防災」についての学習や体験ができるような場づくりも心掛けた。例えば本年度は，表1中，夏ボラ，冬ボラ，春ボラの期間中において，「行政機関の実施する備蓄品のローリングストック」の取り組みや，「イベントでの防災啓蒙活動」，「自主防災組織の平時取り組みや非常時での取り組み」



7～9 学生むけ防災教育とチームで働く力の養成 10 工大も関わり実現化したキネマックスシステムの解説



11

表 2 AISAS 理論にもとづく学生ボランティアの行動モデルと効果的運用にむけた方策

	潜在層			顕在層	
	認知 Attention	関心 Interest	検索 Search	行動 Action	共有 Share
【南房総市でのボランティア等への活動】	知らない → 知っている	知っていない → 気になる	気になる → 検索する	問い合わせない → 応募しない → 問い合わせる → 応募する	感想をシェアしていない → 感想等をシェアしている
【学生】 本PJが目指す状態の変化	できるだけ多くの見込み学生(科目履修者、全体が伊予交遊者)に情報伝達するように発信する	学習支援システムの掲示板等で「南房総市での学生ボランティア」を分かりやすく伝える	工大生の検索エンジンによる検索結果においても、上位表示されるような対策をうつ	メールに応募、書類のやり取り等ができるように誘導する(応募～面接までのプロセスを短くする)	南房総市での体験に対する満足度や感想を共有したくなる工夫を行う
【学生×南房総市】 コミュニケーション目標		学習支援システムの掲示板等で「南房総市での学生ボランティア」を分かりやすく伝える	工大生の検索エンジンによる検索結果においても、上位表示されるような対策をうつ	メールに応募、書類のやり取り等ができるように誘導する(応募～面接までのプロセスを短くする)	南房総市での体験に対する満足度や感想を共有したくなる工夫を行う
【本PJ】 次年度以降の具体的な施策(案)	・募集情報の掲載頻度を高く ・掲載時期はなるべく前期のうち ・全体が伊予交遊者後1ヶ月以内に	・体験談を紹介した動画の公開 ・リアルで作成配布 ・学内説明会(複数回)	・SEO対策 ・市HP上における工大ボランティア相談窓口情報の掲載	・学内担当窓口との連携協働 ・南房総ボランティアに関するQ&A情報の提供	・SNS共有、口コミ紹介に特典づけ ・リアル等でボランティアOBに先輩の声を紹介してもらう



12



13, 14



15, 16



17

12～14 冬ボラでの白浜里見古道の整備と丸山農業まつりでの様子 15～17 春ボラでのフラワーマーチフェスティバルでの活動風景と春ボラチームの集合写真

を学び、体験できるような機会をプログラムに盛り込んだ(図8,9)。

また平時や災害時における現場での市民活動は、いずれもチームでの活動が基本となるため、多様なメンバーや協働パートナーとともに目標にむけて協力する力(チームで働く力)は重要となる。それも踏まえて本PJでは、ボランティア活動においてはチームで活動することを基本とし、「チームで働く力(社会基礎力の1つの柱)」の養成を行った。そしてそれらの取り組みは、その他「前に踏み出す力」「考え抜く力」とともに、昨年度本PJで研究開発した「社会人基礎力 診断・成長シート」を活用しながら行った(図7)。

(3) 「市民活動等の再始動」を応援する学内科目連携のしくみについての調査研究

大学生が社会貢献の意義を理解し、実社会が求める人間力を涵養するため積極的に地域活動を行うためには、学内から学生を地域へ押し出すしくみ(ex 活動単位化ほか動機づけ)と地域側から引き出すしくみ(ex 学生への地域ニーズや活躍の場づくりほか)の双方が重要と考える。昨年度は、後者の「学生を地域でのボランティア活動へ引き出す」しくみとしての「ボランティアマッチングサイト」についての研究をすすめる、そのあるべき姿を検討した。続いて本年度は、今後コロナ禍が明け学生のボランティア活動を含めた課外活動が活発化することを見越して、南房総市に学生ボランティアの新しい人の流れを、「ボランティア科目」と絡めて定常化するか、その方策を探ることを目的に調査研究をすすめた。

① 調査内容

2023年7月、ボランティア科目の履修状況を調査するため学内の学内科目担当係の担当者2名へのヒヤリングを実施した。調査内容としては「現時点での選択必須科目「ボランティア科目」についての履修者登録や単位申請のこれまで(コロナ禍中)」と「現状」「地域側からのボランティア募集への認知・行動の変化」について。

加えて南房総ボランティアへの全参加者21名への聞き取り調査も実施(図11)。「応募までの行動」や「その時の心境」「履修制度の課題として思うこと」について探った。

② 方策の検討

以上の調査結果をAISAS理論¹⁾をもとに整理したものが表2になる。そもそも調査結果の整理にAISASの考え方をもとに調査結果を整理した理由としては、ボランティア科目の学内運用のルール上、「募集情報は学生自らが検索し探さなければならぬこと」や「応募段階において友達のボランティア経験者から口コミ情報が共有され」「その評価も判断基準としていること」など、ボランティア応募までの行動プロセスの中に情報の検索と共有行動が組み込まれていることが、学生への聞き取り調査より確認されたためであった。

理論に基づくフレームワークの結果、表中「コミュニケーション目標」は、主に学生ボランティアからの調査結果をボランティア科目の地域側からみた運用課題として整理できた。またその課題に対する「今後にむけた地域側が取り組める方策」としては、主に学内科目担当係の担当者との意見交換の内容をふまえてリストアップすることができている。これらを概観することで、今後本PJでは、これまで中心的に取り組んできた南房総ボランティア企画への「注意(Attention)」を引く取り組みや、参加への「行動(Action)」を促し手続きを効率化する取り組み以外にも、ボランティアの主旨を理解してもらい「関心(Interest)」をもってもらうための工夫や、単位の取得だけにとどまらず自己成長にもつながる良さを体験者に「共有(Share)」してもらうための工夫の必要性が明らかとなった。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

- 旧町村全7地区において、コロナ禍が明け市民活動を再始動した9団体によるイベント、遊歩道整備、美化活動等を、16日間、トータル630時間分(大人一人分の活動で積算)の現地活動を通じて応援できた。
- 学生ボランティアで応援した9つの団体からは、抱えていた「メンバーの高齢化や活動離脱による活動再始動にあたってのマンパワー不足」の課題を補う学生マンパワーに対して概ね満足いただけた。そして幾つかの団体からは次年度の協力要請も頂いている。

南房総学支援(教育支援)のプロボノ活動も、学校関係者や参加生徒からも好評であった。当日の学生の役割としては、約中学生70名が取り組むものづくりの現場での機械作業の安全管理と体験促進で、授業は無事完遂することができ、協働実施者の市民団体関係者からも感謝された。

- 地域と大学との関係づくりの側面では、本年度の市民活動応援を通じて、6地区の全地域づくり協議会と1地区の協議会設立を目指す団体との関係性を、広域連携といった新しい市民協働の形で、深めることができた。
- 一連のボランティアを経て参加者の約9割は、平時や災害時における地域からのボランティア・プロボノ等への呼びかけを許諾。限られた人数ではあるが学生が卒業するまでの期間、南房総市にとって関係人口としてのサポートを期待できるまでに至った。
- 合宿ボランティアやプロボノ活動における課題は、PJとして1年を通じた市民活動団体からの応援ニーズについて、コロナ禍明けの事情もあって規模想定が難しかったこと。しかしこの点については、次年度以降、本年度応援してきたイベントや環境整備活動等が軌道にのり継続されることが見込まれるので、ボランティアへの応援ニーズの規模想定は本年度よりし易くなると思われる。

(2) 教育・研究面

- コロナ禍明けもあり、学生ボランティアの地域側における受け皿が不足する中、南房総市では年間を通じて20名程度の学生ボランティアの受け入れが叶い、受け入れ規模としては千葉工大に寄せられるボランティア募集主体の中で「中規模レベル」の受け皿としての役割を担えた。
- 本学生ボランティアのプログラムでは、3学部10学科の学生が参加できる間口の広いプロジェクトとなった。また1つの企画においては、平均すると2～4学科の学生が介してチームを組み実践活動に取り組む機会により、参加学生(特にサークルに所属しない参加学生)からは、「他学科の授業の話を聞いて面白かった」「宿で他学科の人たちと話ができ、自分と違った考え方にふれ

られ視野が広がった」との意見もあり、学内でも希少な学科横断的な実習・交流機会にもなっていた。

- 学生との振り返り内容から、概ね社会人基礎力を育む機会を提供できた。特に学科横断的な学生チームの編成やボランティア受け入れ先・実施活動の選定等を工夫したことで「多様な人々とともに目標に向けて協力する力」を育む環境づくりができた。実施終了後のアンケートからは、特に「物事に進んで取り組む力(主体性)」「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)」や「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」の成長が確認できた。
- 一方で社会人基礎力養成における課題は、30時間/回といった実習の設定もあり、学生のもつ「新しい価値を生み出す力(創造力)」を試し、発揮する場づくりが叶わなかったことがあった。この部分については、本プログラム内で提供すべきか、あるいは次のステップとして市内での「プロボノ(自主的)」や「ソーシャルアクティブラーニング(学内実習科目)」など活動の場へ導くのがいいのか、今後の検討課題としたい。

4. 今後の展開

本PJでは引き続きビヨンド・コロナの市民協働をアップデートするために「市民活動」「地域産業」「防災教育」の地域の担い手応援を継続しつつ、担い手の役割や機能を補完していけるような大学関係人口を育て、ボランティア等をつなぐしくみづくりを続ける。

特に次年度は、学内から学生を地域へ押し出すしくみ、つまり学内のボランティア科目を絡めた南房総市でのボランティア実践を、一人でも多くの学生に志向してもらえよう改善を試みる。具体的には本年度研究で明らかになった、在学生に房総市におけるボランティアの主旨を理解してもらい「関心(Interest)」をもってもらうための工夫や、単位の取得だけにとどまらず自己成長にもつながる良さを体験者に「共有(Share)」してもらうための工夫などについてで、学内の学内科目担当係やボランティアOB・OG、南房総市市民課等と協働して進めていきたい。

* 表彰・マスコミ掲載など
 ・令和5年度 市町村と市民活動団体との連携促進事業に係るアドバイザー派遣活用事業(千葉県)、成田市市民生活部 市民協働課主催、成田市協働職員研修「協働事業始動! うまくすすめるための協働のコツ!」、2023.10 ※協働の再構築に関する講演とカリキュラム教材を使ったワークショップにてファシリテーションを担当。
 ・房日新聞、「市民団体らの再始動支援 ～千葉工大の学生5人夏休みにボランティアで～」,2023.9.2